

## 4つの森林活動

みなさまの参加を  
お待ちしております



**小手澤の森**  
第1・3日曜日



**知足の森**  
第1・3日曜日



**相模湖・嵐山の森**  
小原本陣の森  
不定期活動

# News Letter

## NPO法人緑のダム北相模

[midorinodam.jp](http://midorinodam.jp)



**No.651-652**

新しい調査地に防獣ネットを設置しました

### 【定例活動報告】

森は今、一年のうちでもっともその表情を変える季節です。いつもは緑に埋もれている山桜などが薄いピンクの花をつけて存在を主張すれば、芽吹いたコナラ等の新芽が山肌を覆います。今はどちらかといえば白のグラデーションがかかった森の色は刻一刻とどんどん変化し、夏にむけて次第に濃い緑色になっていきます。毎年のこととはいえ、木々が春を忘れずに芽をふき、花を咲かせ、茂っていくさまに、圧倒的な生命の息吹を感じます。

相模湖周辺では、スギ花粉の飛散はほぼ終息、ヒノキ花粉もピークは越えたようです。蚊やブヨなどもまだあまり見かけません。「春に三日の晴れな

緑のダム北相模は相模原  
市内で活動する森林ボラ  
ンティアです。急がず、無  
理せず、楽しく、休ま  
ず、ボチボチと・・・。



し」と言われるとおり、変わりやすい天候と寒暖の差はありますが、森に来ていただくには良い季節です。5月17日の定例活動日には、森の中で瞑想するイベントなども計画しています。初めての方も、しばらくご無沙汰の方も、ぜひ、森の生命力のおすそ分けをもらいに越してください。お待ちしております。

栗田 浩史（本会、理事）

## 【定例活動報告】 知足の森

森林ボランティアでは多くのことを学びました。体験で驚いたことは参加者が積極的に行動していたことです。スタッフが何回か参加したことのある参加者にどの木を切るか、どこに切った木を倒すかなど意見を聞いて返ってきたものを取り入れていました。先生はサポート側のような体制であり参加者も森林ボランティアのメンバーであることを改めて実感させられるような素晴らしい活動でした。一番印象に残ったことは班で協力して木に切れ込みを入れた後、ロープで引っ張って木を倒したことです。倒した時の音や上を見たときに空が見えた景色などは今でも忘れられないもので、達成感がありました。

また、倒して終わりではなく枝打ちをしたり玉切りした木を積んだり最後まで協力して森林の整備をしました。テレビや本で森林の間伐を環境保全のために行っていることは知っていたけれど、一本の木を伐するのに多くの労力がかかることが分かりました。また、森林を守るには多くの人の少しずつの活動がとても大切だと実感しました。

常見 玲奈（佼成学園女子中学高等学校3年生）



今日は、今年度最後の定例活動でした。最後の活動には30名を超える小中高生が集まり、4チームに分かれて協力しながら間伐に取り組みました。小学生グループは山の下の方で、中高校生グループは山のかなり上の方へ行きました。山の上の方まで登るのは久しぶりだったためかなり疲れましたが、普段よりも人数が多く、にぎやかな雰囲気の中で作業することができ、とても楽しく活動することができました。活動の中では、久しぶりに木が盛大に引っかかってしまい、どうなるのかとても焦る場面がありました。しかし、チルホールを使って右や左に引っ張りながら、全員で声をかけ合い、何度も調整を繰り返したことで、ようやく倒すことができました。とても時間がかかり大変でしたが、その木はかなり太く、その分倒れたときの達成感も大きかったです。みんなで協力して一つのことをやり遂げる難しさと大切さを改めて実感しました。

午後は、薪割りとボサ刈りを2チームに分かれて行いました。私はボサ刈りを担当し、竹が多く生えている場所を整備しました。思っていた以上に手間がかかり、きれいにするのは簡単ではありませんでしたが、少しずつ作業を進めるうちに見違えるほどすっきりしました。小学生とも協力しながら作業を進めることができよかったです。

今年度最後の活動として、とても充実した時間となり、よい締めくくりになりました。自然の中で仲間と協力して作業する大切さを改めて感じ、これからも森の仲間たちと協力して活動していきたいなと思った1日でした。

鈴木 菜織（東京学芸大学附属高校1年女子）



## 桜井尚武の 森のコラム

### 「アセビ」 (*Pieris japonica*)



図1 アセビの赤い新芽

20200417 汐入公園南千住



図2 アセビの花

20250323 つくば実験植物園



図3 花後に早くも造り始められた翌年の花芽の1月の様

20210110 南千住



図4 幻想的なアセビの森

20230527 天城山静岡



図5 ササ草原のアセビ

20220422 仁科峠西伊豆

ツツジ科の常緑小高木。樹高は5~6m程度で直径は30cm位までになりますが、身近にみられるものは大きくなる前に切られたり刈られたりして小さい灌木状のものがほとんどでしょう。葉は革質の倒披針形で葉縁には浅く細かい鋸歯があり枝先に輪生状に密生します。春先に発生した新芽は赤みを帯びることが多くこれも綺麗です(図1)。3月から4月に壺を逆さにしたような白い花を枝先に総状花序をなして多数開きます(図2)。花後の夏に種子が熟しますが、その頃翌年の花芽を作り始めて蕾として冬を越します(図3)。もし剪定をするならこの翌年の花芽を切り取らないように花が終わったら花芽形成が始まるまでの早い時期にすると園芸の専門家は警告しています。

アセビの分布域は山形県、宮城県以南の本州、四国、九州、そして中国の山地一帯で山岳部の尾根筋の表土の薄いところに多く見られますから乾燥にも強いと思います。相模湖周辺にも勿論あります。

アセビは有毒植物です。この種の漢字表記は「馬酔木」ですが、アセビが持つ神経に作用する有毒物質のためにこの植物を馬が食べるとまともに歩けなくなってしまう様子から名付けられたとされています。古くから使われている「あしび」という名は「あしきみ」から来しているともいわれているほどです。この種の葉や皮などを殺虫剤や家畜などの皮膚寄生虫駆除に使ってきたそうです。

最近鹿が増えて各地の山野で灌木や草などが根こそぎ食害される事態が生じて大きな問題になっています。餌となる草本やキイチゴなどの灌木の果実が無くなり野生生物、特に熊の生息環境が悪化しているとの声が大きくなっていますが、樹木もメバエや植栽木が根こそぎ食べられる被害が頻発しています。アセビは有毒植物で鹿が忌避する植物ですから、鹿の活動が活発な地域ではアセビを残して他の植物が食害されると言われてきました。伊豆半島の天城山は万二郎岳と万三郎岳を結ぶ尾根筋にアセビの大木が林立して幻想的な景観を呈しています(図4)。曲がりくねっているのはアセビの特性によるのでしょうか、気象条件、生存環境の厳しい尾根筋で長年少しづつ成長してきたことの証(あかし)でしょう。

伊豆半島の北部にある達磨山の山頂部一帯はアマギザサに覆われたササ草原ですが、その中にアセビの単木が点在しています(図5)。風衝地で土壌が薄いところで鹿の食害を受けずに長年生き続けてきたアセビが最近何本か食害された痕跡が見つかったと現地の方から聞きました。食べるものに困窮すれば有毒植物であっても鹿の食害を逃れられないのかと暗澹たる思いになります。

桜井 尚武 (本会、会員)

## 【活動報告】 GTE LABの3月の活動から

GREEN TECH ENGINEER LABと協働している活動の成果をいくつかご紹介します。本会の間伐材を使ってデザインした木製ガチャを高校生が販売し、各地で活用されています（左上）、木工ではやすりを大量に使うため、そのホルダーをShopBotで作りました。横向きだとトイレトーパーみたいだったので縦置きになりました（右上）、日本地理学会でシカに関する調査を高校生2名が発表しました（左下）、埼玉の皆野町のヘリテイジ美の山さんに、ルームキーホルダーを製作し、寄贈しました（右下）。

宮村 連理（本会、副理事長）



### 参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

### 危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

## NPO法人

### 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム

国土緑化推進機構・緑の募金

ChangeX（AWS助成）

協働団体：神奈川県、相模原市、小金井市、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構



緑の募金



一般財団法人  
セブン-イレブン  
記念財団



SEKISUI HOUSE  
MATCHING PROGRAM



Amazon  
Community Collaborator